本寅丸 貳

へ 13
3180
9

へ 13
3180
9
昭和十年六月二五日
購求

岐蘇街道續膝栗毛四編　下巻

十返舎一九著

東武

赤坂の宿近き松原よりかりるふ。草苅
子どもら。声くようようひつれて坂をのぼりかたをおとふるり
さるよりて「ハヽ」木曾のやけたー者田よりこ。碓井
峠よりアレ和井沢。ヤアトコサヨウイトサ。コノなんでもセイ
山内並木よりこ「モシ」休んでいろうせます。茶ア茶つて
やけーる生ちゃ屋の親仁
ざざら世ます「アヽ」あいとこまつぷくやらうそ

「とうさんりの何時ごの「アイ」なんどをでおうざろ。
おまんまうせ「ぬう」「ぬう」「エておいうが者へうう者く
のごぶ。怪ようりの九ッまとあらのやうるとであるの「アイ」
その時分でもあうざるよ「イヒヤ」そとおうざやアあるあへ。
りの八ッざろう「アイ」八ッでもあうざろト此月又てんびんざうの
さるよ義者メざろう
るとううげ水ーとうりつけしるを「とうさるりの七ッでもあうざろ
ひううざげる男者ざくちよまとて
「そのざく。七ッでもあうざ「イヤ」此犯どのの。人のの
そうおざろいうてゆる。ナと七ッるりの。てうど九ッ

まふちけいが稲へ「ソレ者」ちうてぬさうせるうぶどと
ことアるんよるアトいひうちやをうんで生まと「とうさる。
あううふやア残が弟朱よ何のおうう賣ある「八百七十
せるであうざ「そんるのやを「とおのさうりへクピー
ちくとおがひとうざあうるピーや者ううあんざ六七
里も戻りるるりのざやが此濱が邪ケうさるなうある。
ざのぞ弟朱ざの買のてうまうせ「ぬう」「ぬう」てあうざる
「陸」
ささ及者メりうてゆるのそれざけで弟朱ゆ買て

厚月
松京風や
玉秀の輝

やろう（男）「ハヽ」あさけさとらうせるパ十ふてあるぞふ
なア（張）「イヤ」そんなるぷ九百ふ十でもを打ふろ（男）「エ」其ふん
ことでやせどエぶるんよ。九百五十よまるうめんでやう
ぶろト（張）「ふんとときて小銭九百五十文さー出ととばかりふところうそとそばよとろてあがうくひのろ
（男）「コリヤ」山かよいとめぶややう気ぶくひぶやうろくて
こまさろせん（張）「ドレく」ろるんうもへるんたづさ「トふよろて
ふんれがぶうこまるあるあ色これふふ一紙とありひ（男）「ハイく」ふれハト
あるぶそのるをうけとろ又ろるよ出て「やると
りてぶて出てまひ銭をとて。（張）「九百五十とふ出てやく」
ちやけをおきて出てやく

ふろ一小銭（にぜに）ぶけ。役害（やくがい）のぶが。小へそのふろ一紙
包（つつみ）の中へ入（いれ）そのうて（ふて）まろく（ふた）エ（張）「ドテ」なとを。
それいくがどふの合点（がてん）がらう稼（かせ）ぐおめくそのうもを
入せるぶドレくコリヤまんざらなものぶ今のやう
めがどふやうおろ一紙もつ紙を出やアぐうぶコリヤア
あうちふ原玉（あるだま）の種（たね）をとりうそぬぶさりかうれさ
のぶもまれ稼（かせ）く（張）「ヤ」ふ。そふらくだるそどぶちうが
さのやうなや稼とぶうてぬるちぶでくい稼ぐぶらいあく

いぶいつめんどうちのみるくいきやーアがつと
きやとつぶーてそとへうけ出ーー居さとろがらづくれーやうげも
くうちあんへぐ居い在中あそあそあるそれあるエあぐぐうくをりくて
さそうこうのこうり出もうやとぐやの内あそまりかるエあり。どちうう
あてくるあふぐぐぜふをうめべうふぐ猿りのんとろえべきすあり。ほはうう
猪やをあうう猪がぐやれんを一ぐ。さんうかいく業さうーー。
のうくいくひくるうり
一ぐ。
エくやめくやそれと元がはぬくうぐ。なぐそのとそ
いうてくれ猪くモミ今の男いさぐめーぐ。ぐ通のものぐ
うのが。ぐこのあんといのやぐ。ぐねーぐ。ナこエーがあり
ませぐどう一ぐ。イ、ヤさるあまう猪くさアいくんせ

猪くぐのぐう近者のやうを挨拶ぐうくぐやア
ねくう一ぐ。イヤあんなあぐそいエせるやうが。雉あぐも
別ぐ。あうぐいあて来あるのでやぐーまうぐう
あうぐぐこアあるんぐ一ぐ。なけなーのものをさんぐ
目あるぐやアがうぐ一ぐ。それもあくの歌都うう。
あんな見あるのぐあうくぐが猪くト一ぐ。ほはうひとりまう
あるーぐこれやときのさいあんとあはうめあぐう。
大きるふぐぐ所所をあそくとうくうとそ
青葉の猪をび梅はあうやせで

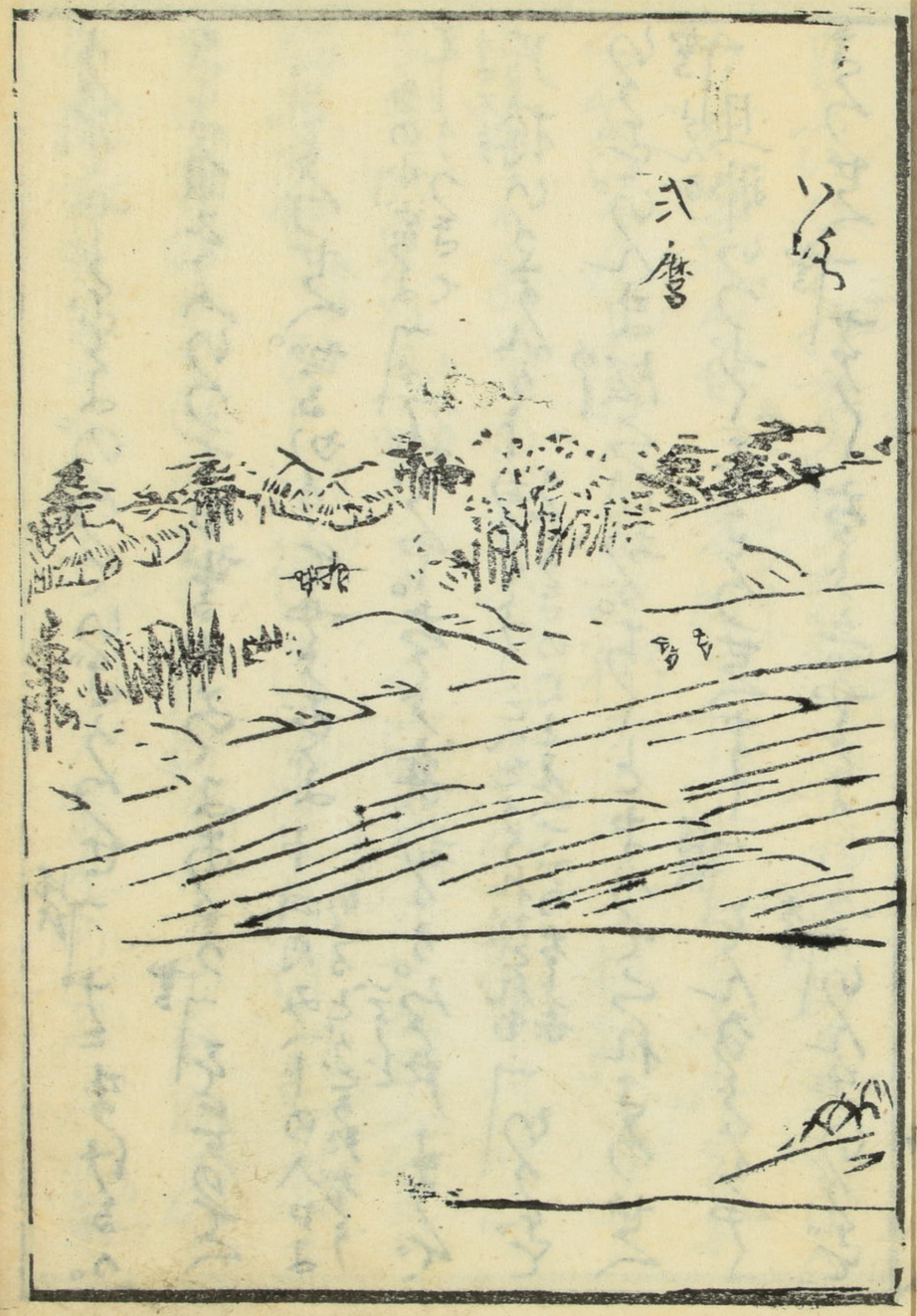
「ハヽヽ」狂言師でもあるめへ。ぴらぴらとこぞいつて。
その紙帙でやつぱりかつて。素を
をとをあつア稼へあよ「ハヽヽ」おりへがいめへ。
イヤアこりゃ。むりめへ。袴をうんでらゝ。ちがはさうの
ちぶやア稼へう「ハヽヽ」ホこりしろつねがよゝ。似てある
「ハヽヽ」ちげへなゝ。おいらぶゝ。トいちりゝさんよ
「コノやろうめがト」はらをつきそあまるとさきの男びつくり
ふりかへるひやゝゝぴらげゝゝぶらうみて。

「ハヽヽ」アイタヽヽ。さきの男「コリヤ」なんでや。
とあつはたり
「ヨヽヽ」紙をはぶりうさせトいふ敷をきんれがそのくでな。
ほんとうあつまとかくるぐら
「ヤあさくどつぱめんなのせへ。おつげであつまへが
ふうんといふと。目の玉が赤申のやつへ。飛出ゝゝア、
いそへくトとでといひつもくるどう板橋川
ふのヨヽヽとりふよりうる
まるかどのうまん先兵を抗橋川
ゆくのいとゝのろくでなん旅
ぶそこのいとゝをむふへさやると「モを」旦那さま。

なるゆゑやいかゞやまとうしてそいかゞよみあ「侍」「さぶらひ」「ハテ」そのいろいろせざることなかのつてそれさろせへこれく
且那「ト」さろのあとそるはしのそきさろる「代」「ヲいろ移へといふの」
まろさん「聟」「そのでぞあるぞかぞぷーどの「隙」「ひま」やの。
さろぷろいろまざことがでけんさんがどあぞ「の」ろうて
いざろうせ「侍」「ハテ」どこまではんて来ても「ぜ」ぐるみ
えるーぐのりさーてても「ぜ」が移へろう「聟」「ヲてがなよ
ちくらーだいろいろせるがよとーいはんざことろぐ

さそけるのふて。「ちい」「と」墓ろぐでやがそんなあがそくれ
さろせへぐまくるのそのが米ぐ百ま一斗せるー。「侍」ゆゑ。
「ちよーき」「侍」「ハテ」「代」「コレ」くーそんるまなるべそ法ろて
法をいろーろー「代」「コレ」くーそんるまなるべそ法ろて
来ても。出家「そうけん」「聟」「侍」「そうけん」ざがりけろうせへくーへみ「聟」「侍」
まぐで。百ま十ぐれさろうせへ「侍」「そんざことをいふぐざること
「だ」場ろうぐりの者里由法いて来さろうろうぐ。「ミえ」「ぐ」江ちるか
「聟」ツイそそるまんるん「聟」そんなるまゆーー「ごうど」郷戸ゆぐで。「侍」「ぐ」百で
ゆーぐどろ「侍」百ま十ぐろのうそものやろへ「聟」ゆまゆ

江戸川
月
秋の


弐磨

うんてゆらぐそのうていざうせ「侍」ナニまけるゝ。
ちさうあそんいうても。「客」ゝがさてまあるゝ「客」そこあのて
ぶざうせ「客」ゝ「侍」ゝりてゆうぞよ「ト」ト此間みへドの入口は
そこるの小家よ「ゝ」どうめでや。たうぞ兵衛ゝるゝ。ぶ戸まうで
片梅いうまんゝト「ト」ありてそうこへをくれがこれも「ゝ」いうぞど
いうどぶんま服ゝひゝる。ちうくとまうてくれさうせ
「客」どんま「侍」且那いうぶくとうせ「侍」そんあうたゝく
さうせ「侍」サアく「客」たゝ兵衛まいうゝ「ゝ」いんまいうぞ。

りあいうたいりかうて「客」よゝひあるぞいうげん
あていざうせ「ゝ」「客」麦服でや。アうとうんざふ
ていうんとぶうきふ猿が居りあれ。コリヤ
だんだあどのりあいうたんゝまさうせ
「客」「ゝ」「侍」男ハ且那ぶがまうてこざうせるぞあでや
どうでや「客」「ゝ」「侍」「ゝ」片梅よいうぞこざアいうぞ。
でけりのぶでけてあるゝ。
それでもようぶぶう「小八」ゝ「客」ゝんのこんさ。「客」

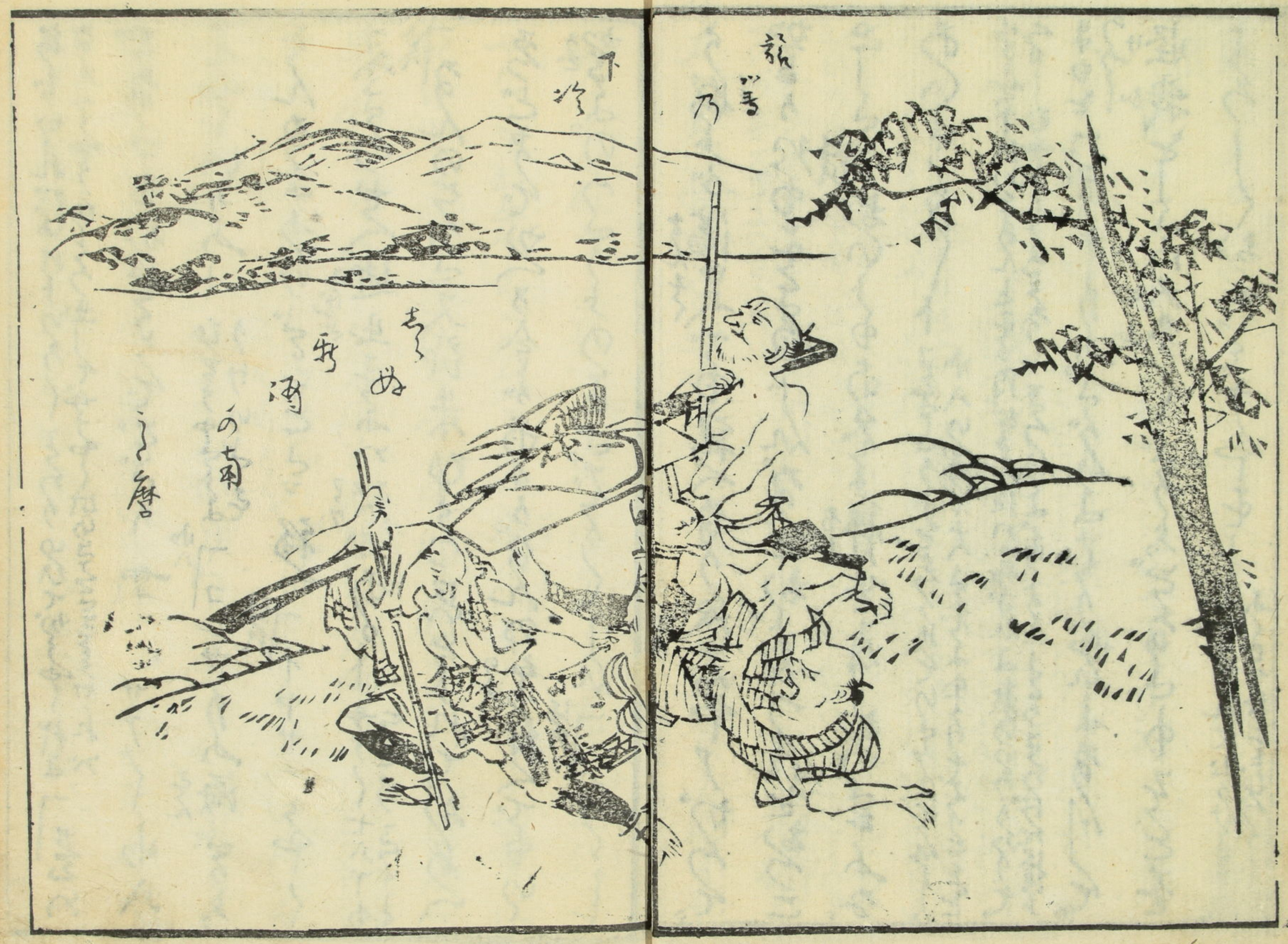
皐がある。かを祝へ〜やァ。はまらう祝へ〜。そん
なりや。そなりの。めん紙。よのまんぞトス又はしまの
のぞき。どんでや。福七。が身。ん戸。うて。片。持りう
まんりう。いうぞく。りんま。服。ふてりうぞ。ぢき。又
服。コリヤァ。ん。ぢまう祝へ。ぢよ。祭りよりふまうふ
イヤ。そんなりや。ふうまん。ぢうまふりうぞく
ふく。七。が身の。祭りかくまんう。ヨく。かてやぢ
ぢ。ふく。ヨ〜ヨ〜。不の。祭り。底。がぬけてあるが。それでも

よりうぞう。祭。底。ぞうわりんてもよりうぞ
ぢ。ぢ。ぢ。

「イヤ」ぞうびとまやこてのうまくかろ「の」
ぬんこてアちぐひいすうぐぞ。まんぞうこて
のうていざうせまし「まうんへんうな」
ぞまあぞぞもうこてとさ移へよまやてぐ
せへト「ぞようちのんがぞうれのこまさんぞうかくぞびうこの
ちうんべぐうこしてはぼうと大きまのうぐぞうこるく」
ちうを「コリ」アアあぶ移へ「ぞうぐぞきみのこうん」「ソレ」
いうあて
ちうとあうちぐへうて。ぞの言んぞうぐぞあ
ふんぐけてあうぐぐぐ。それで移合ぐうぐあうさ

「ソレ」ぞがこるかうぐぞ「ぞ」ヤまくサまあやうちぐじや
ト「まんあーのうこうけうまあとまそれべぞの地形ちうくみど
うきあーのうくらうくひうぐぞへうぐうぐうとうとうきとまうく」
ぐるま「コリ」ヤうくぞこうるくぐ。アあうこてちそうぐ
「ヤ」あちうくまうこのうちうせへます「イヤ」このうこうう
も。移へやつぐト「ぞきむうぐぞうぐぞの中かうこうとうと」「あうさ」
あうさうくぐ。ぞ「コリ」ヤうねうぐぞうさうこそふかう
ぐ
まをとてうさんぐうふまやアがうぐぞぜんる
びうこめふううぐぜてぐ。おうこてとまやアがうさ

猿松めが「ぜぜこぐ」ぶつぶつ中ア移へ。ぶらぶらてるぶ移へ。ぶらぶ
ゆんゆつぶトたぶぶちまぶれは。ゆとぶぶうの「コリヤ
ぶのぶつぶる。トつぶをつぶぶをぶぶぶ


下
ぬ
酒
の
南
啓

移ぢかれがはいろ〳〵ところのひとがゆく代よ「是の
なんアまゆうひとろ出てゆうやゆけひらさささければ
どるるこもあんせろとでござい　ゆ〳〵。サアく小八
ゆくいろ〳〵ト　おせうゆさよ「コレサ　りの源ごろ。
うけいごもを
そんなるよあげごとこさゃ　移〳〵「イヤサ　たゆく
未さろせ〳〵。逆（あげご）出さそふわ　沢（ばけ）がある　ト　ゆう〳〵（七八丁もそをりまると）
「八（ばん）なんのろ〳〵。又沙朱ひろ只さんれて。おめく
ろどゆでゆ〳〵る　合（くみ）がある。なんの　等（のと）　移〳〵でもら
賀（くど）よ。のろ〳〵のとご。だろ〳〵ん「八（ばん）〳〵〳〵

あ〳〵がぬろ〳〵移〳〵ろ紙（ろし）。膏薬（ゆうやくば）代ふ
ゆろ沙朱（しゅ）。さろ〳〵の網絲（ぢうまつ）。そんごろむせうに
かけ出〳〵さのごいごめして郎席（ろうせき）よとんなちろんが
出るゆ〳〵。八〳〳〳。念（ねん）のとあ設（ゆうあ）てんゆう　ト　ふとところの念を出して
ひろ〳〵ゆ〳〳あてんれば　ゆろ
かのごう〳〳ゆ〳〳のろてあり
けゆ〳〳移〳〳「絹絲（ごうまつ）ごと　移（ばけ）ヤア〳〳。おいんを
かゆかゆ。ゆろ〳〳ろんとろ　おりて出てゆろ
おいよ絹絲（ごうまつ）めが殘（のこ）つそけろ。ゆ〳〳。

駕の内ころけ蔵する性我よりも
只ぼうぼうとする式朱きいさごと
ゆくて山百蔓ひよいとで氣もあさぢぐうくと
糸ぬた柚木川をわたる。郷戸のとさーかさー
ばくぞ西の山の端よる月新頃きおのづうう道
ゆくー人も見だやるるよおこて。叔ちりハきわくと
たどる跡うう。涙人めたしるあうづきいづきも
袋縫ぶうくーとて。眼ざーきさ張つたゆ。ゆ

ろんべうりのくあうづたるを引ぱり。柄糸物
大小きさーぱきー人の鉄の銅金入る大根元をとと
たんぱーの色を貧頁赤るが。銅をかけて刃イイく
きさ袋ーちろ百どりのじ紅ぱうもづうくよどう
ぜんぜんるーみがうゆくべん。待なまろ「ハイ
あ形ぐーも百どう稼「十三江戸近道ぶぱおうちの
ゆうーハはうう半ーをぱるるぶるう稼ーうけで。
ひさーくーいう稼人がぱきるぱちハ何う。伊勢糸

宮ゥ。俳ーハ商ひ用で旅行ィ。毒賣ハ何をさう
言ふる「イエ」ハ。毒賣ハ毒賣ッさ言ふヤ。ハ旅の
ときの風俳。ぱ。まッ〳〵稼ハ月の上でこざりまッぷ。
おめハさまぐさいどこハ出る出ハ「ナニ」おいらハ
どこでもあてハ稼ハ。年中ハ〳〵旅をあるく
ぶ。毒ッぱいといふ。大俳さん稼でも言ふ
そんなとぶ「コウ」ふ。ハさん。おいらハちと急ぎ
ヤ。モもあるさ言ふ。長旅ながらハちと。

おさ稼ハ来ッヤ。「旦那」ハ泊りも言ふてある。
そんなふいそぐこさァ稼ハ。ハテさ言ふ。おいらを
おうし程ものざと。氣ひぐるもうもぶ。何もこうん
ともおそ稼しんとも稼ハ。ようでどうもよ
ハ〳〵「ナアニ」ようんとも言ふ言ふる「イヤ」
言ふれでハ稼ハ。コノ男も〳〵ぶ仲間ぶ。ダアハ
大さる言ふ言ハ。おうおうさノウ「伊吉」イヤ出ハの
出ハめハおんとでヤ。越紀川ッ眼張てぱッ

あつまぶ。みんぞ〜紅エとんなうぞ。金ヨアキ
又六十だう〜持てあるやうな。青野ガ原でぶい
間よじろうぶつやけうや。たう肩骨うう
大げさまやりかうんさとおのひあつま。存の外
いうさんは逃出〜けつやつてぐんくまこんうーかう
んとんぞーても大津の住ようう。昔のそ赤祢
ちうこのどヤト伽のあんアよもあ〜大ごへあげてのたま。小八い
うそきを日ろく〜。是ハひうんなりのと戸づれよ
うしぶふぞーてさうぐさんと泳ぶう〜のそやをひくよぶぶ〜ハ又この
あのどもぶ。あれはとどやうしてぶうーあそぶうんと

ものひみがくさんどもきやうくまつ「ハヤ」ちめんがくこんさん
ようくをんせーどとがさくあるひのごと
m毒蛇ごとくぢうちくの泥場こそまやせんが。
車中旅をあるひて。心の中でもうる夜中。猫で
あるとやうくさんとこのふとへ移ん〻くまり
やせんが中みいさごめて旅をさるも今。ちめん
がさのいみやうみを沢いろてさうせーさぐさそし
がるでござりやせうくちくいとんるふ智家ーも。
怪かくさんくても。剣御へ滅法流のゆくーとさくく男。

あさくの時へ百人でも千人でも。造紙へ移へそこく
いくちやア大阪みりのさ。「ハヤ」「ハヤ」イヤきさきま
ん紙せる男ど。今夜へ同宿ーてんるそふく「ハヤ」「ハヤ」
コレサ氏をさん。おそくあるのくと急ぎみせんる「ハヤ」
はまのへ大分ちいくを氣まひるやうもどぐ。ナア
たくの志まてきさるぬくちのよふなものよ同をかける
りのく。隔心ーよ同宿さうちもん。加納へ猶田やが
よくくそくいくちまよとまくうちまれコレ付吉。

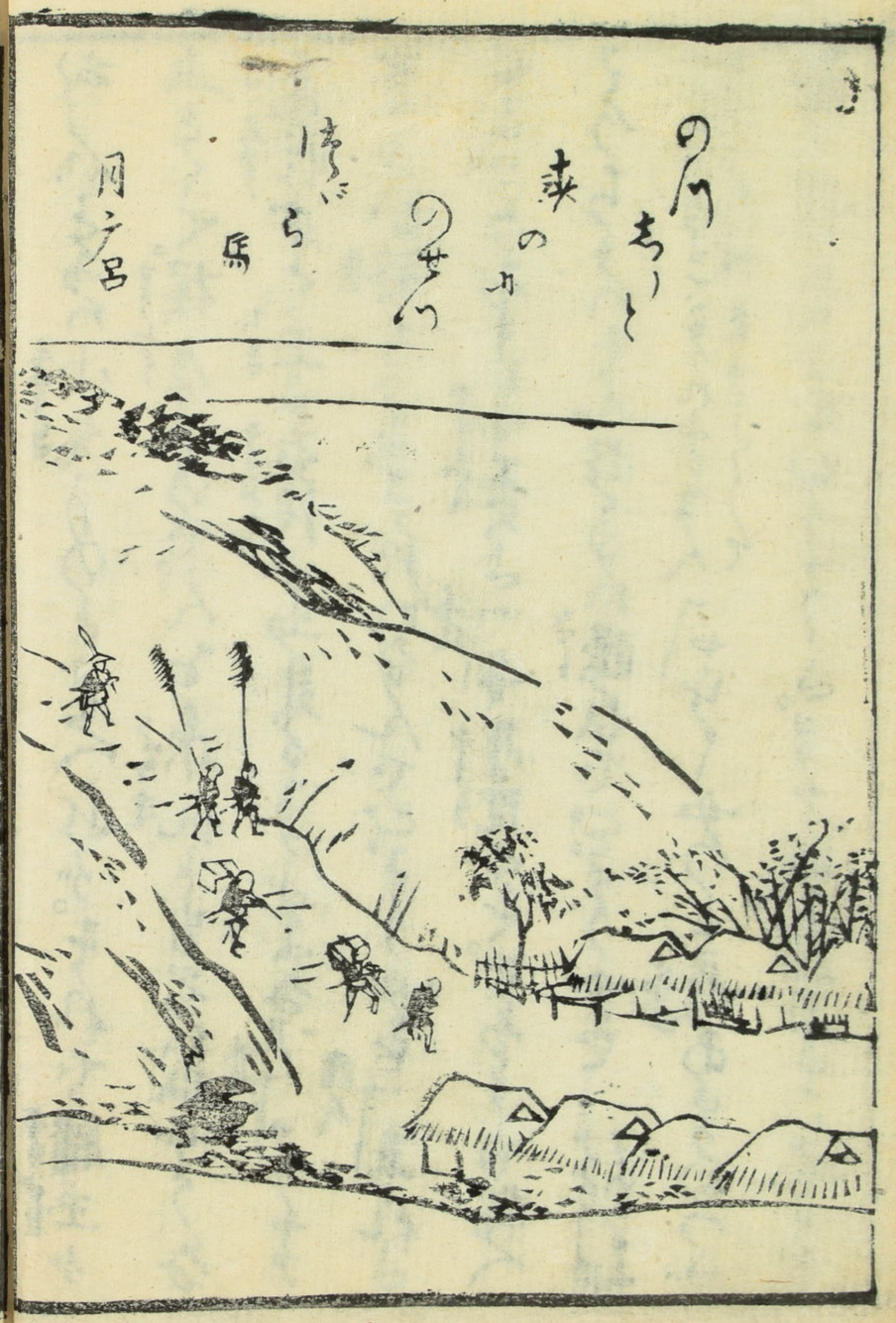
とさまの人今のとこ紙。塩梅よくもうて。跡うら猪田屋へ
来さうもあん「ヲヴト　おもうちく　ト　何もう源人のとさまもあひ。
ひとりあとさがるとかの源人ふうふいかうまれつんもちやくよ。ほうたぶも
今ん何とぞしてばらうふんとおもろんとおもひいろくくふうさらぐ
ちらごさんとたるよどくらうふんのつれおもひてどやわくまる
うちっぷりのもあくよりいるとあうんのたまごやうう。
女「おとまりじやござりませぬう。おもうあく
娘「イヤ引っぱる拉。猪田やへもくのぞ「女」やもまか
さうまでおざりまさと「娘」ホンニおざく。サアく
小八「イヤうちうちうち

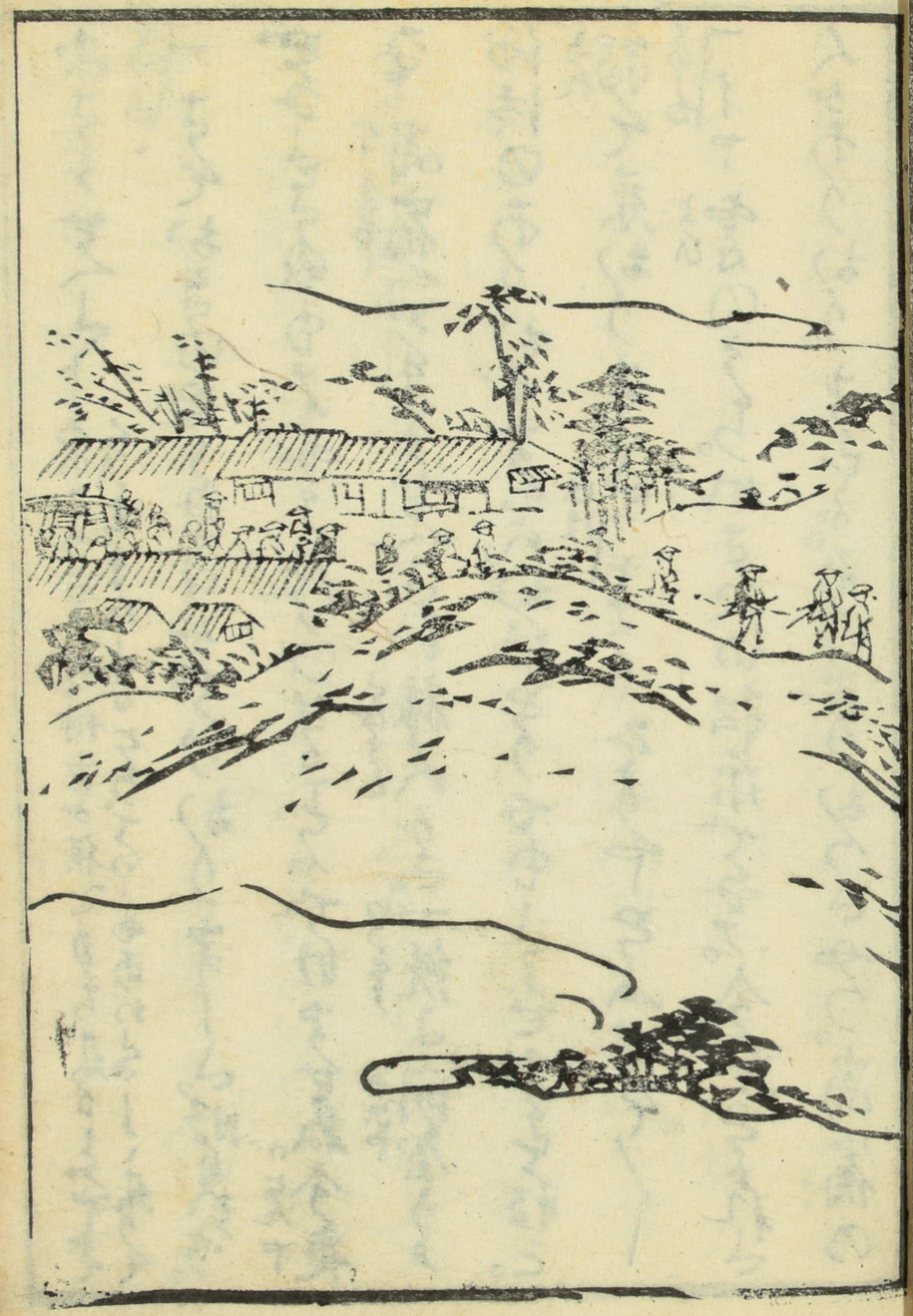
お風呂（おふろ）へはいるとすぐ浪人（ろうにん）ザァきさるぬさらち
湯（ゆ）さぞめぶ（ほど）まづくあれさ浪人（ろうにん）ドリヤあるされへ
ゆんろくろト湯（ゆ）あとあて小八（こはち）コリヤとんざめと頓宿（のいやど）
しざまり強くも移（うつ）ぷんのたろせべいくとふ。
おれ（そんなさまう）よ相（あい）ふまつさうつけとまれさ
ぷコリヤ今後（こんや）きようつぷとんうつうと移（うつ）まれ
まう移（うつ）ぜ（ぜ）浪人（ろうにん）のかまうとぶあるものざおまも
そんかおめつさぶあるつふよ弱（よわ）きとんせてつまる

めのうぷとく（護摩）の灰（はい）ぶうぷとうぶ。とうぶとうぶ。
とうちうまうきてうめんの旅人（ふうじん）何も牡丹（ぼたん）移（うつ）
つる（少）そんぶとうて氣味のようんトたまのうちかの浪人（ろうにん）ぶうう
あぶり（ザァ）ぶぶとうつぜ（ぶ）高い湯（ゆ）ぶよトこれうちうちうめ
まれて（ようてよう）猪口（ちょこ）出（で）てまうく（ちょこ）ナントきさるぬも完全（かんぜん）ぷまう
ままひぶぶる打（うち）ろぶて
移（うつ）（身）の上ぶといまたとうぶ。幸（さいわい）ぬ出（で）とうも出（で）る
とのたぶ。ものの御馳走（ごちそう）ぶぶ。ぶん雞子（たまご）のくちが
ある。ぶぶとく（ぶく）氣（き）の移（うつ）（移）ハイ（はい）とうちうが

ものでもの、一ツサさるのんきらそ。眼
つれがきよ〳〵ぞ。どうぞ小盗でも来そかな新
つれ。赤ものゝふさめて酒のるぶろう〳〵。
酒か大好物でおざりもと一ツりやようとぞ。
酒も砕て来るやうじやアはまら移へ。春の呑わど。
板性骨がふとくのつて。せう〳〵か酒丸でもつた
ぬきでもさるやうみ酒ぶと。ふひげん分き移へ。それも
来う移へしやぞ。一ツそれからよくくのりぬ。

おりんとのか小元ものと。それで勝王が
ふとくて横巾のでぶんを糸丸ともそのぬやうな
氣性ぶと。直ぐお徒が出るるぶるなア一ツりやア
そんぶお好をぶされかるんでおざりもと一ツ来れさ
とぶろう書奏ぶ一ツ巾程とそ。どうも移へ
ろうちよんそんれるのか蹴ひでおざりもとトたまの
せんてあるとれる貴人。一ヤレ〳〵もつと易あるもの。
ものつれ体吉きとりて
新ろうんもの来ありもの。コリヤもんぶおもう


月ヶ呂



ぎさう世くさト あいさうのもち。伸吉が孫をとりちがるとやぞ
らへちまひとるとうでいしもあかるしゝあるて
「さておそのどくなるすがでけ」ありまし。時に。
どるとさうなもんあうたらうせるとうがでけませね。今夜
なう。南宿へどまらう世くさおも孫人がど。一緒よ同宿ろう
伺法のあるまるまでぬあひとりでもさせまるとと。
知て来ありまし「ヤヤ」そりやとんしてく
「イヤ」青のうちぬ。ぬされの松原でみア。今をとそれさ
人がありありまるとぬ。その。とりあるさ世。南宿の
うちへ泊りてあるうどと。旅籠や中者彩くこの強者
志ありまるとのるでみア。その海あるまでい。孫人
がどひとうもとうせるとうがでけありませね「エ
そんどうのエとぬ。伺法さんコリヤどふとる「ナニどの
さるるうそ。こちとそんそんるらさくさのあるのどヤア
みー。何時立ても搗ひそふもるんのぬうそのる。
今ううまどぬよ出立志とうのあるうまいく。
ハテあるうがとようぬうそ。そんなとのるうまで

ことゝ、ぞ、ぐ、るもまだゆうちゝてゐるうでや。お覚えが
あるけうまや。がんよおそぐんとものうらむそふみア。
おちつうろせくておざ〳〵せくますトいひさそかうさへ
もく〳〵仕言わとろ
ようゝ。ゐるえりめんじまの　　分布を出してゐんせうけ
ゑそでやく〳〵ラ、出すゐすく。コレんさうせくゝ今とその
亭主がうつゐれはるやぶ。おとの宿ゐうは法けて来さ
旅人とゝ出男よえ対すてとゐうせる　分布ゝコリヤあつうと
あるぞく〳〵ト　分布をひきくゝ　　ゐとろへ入れるとゝ
ゐとろちん入ゝまでおめくぐとゝが。戦法をいひのきると
おりつてゐるぶゝんとゝまおめくぐとゝんゝそんな
毒薬をとるのうくゝそれじやア今晩お宿ゐ
はめんゐるせくゝ今とその内へ断て座敷を別よして
ゐうひやせう　　。世話みとをいふおとゝざ
あゝうれとぶおうとゝて。道連のきゝ衆とちゝ。
羅漢をかけるゝうれおくゝでもゐん。まゝ〳〵そをを
たつてきさゐがゝ羅別をまゝふといふとゝおゝが

こちらひとつで。僧よりこざんこうとも。まうてゐる。
アノ。のおしろぶんさうで。居さうせう。さうとも
まうとんとゆうのの。小氣なものぢ。ふ。きびせごと。
ほでもいろたい。呑みでやアア。移くゝ。仕すの。海も
明へかとまりやせ。飯。くゝ。さまあとちんぢろ
子よ。仏。会ゐん。氣の。弱ひ。ことをいふ。かまうぢごとりの。
移さうまあい。ぢ。ほれ。ぢ。くゝ。見ぢ。移くゝ。まつ。れものの。
ゐのんぢごとうちちアア。石のうへ。よ。ちとうて。居る

やうで。ちうさのの。も。落ち。ぬ。せ。ね。ト。仕。門。ト。さうて。ゐ。ふ。
おうぢげ。ゐ。さう。ます。お。床。ま。ま。死。ま。せ。ぢ。ま。ト。夜。ぢ。を。ま。ま。び。て。
ここをとうのくゝとうんゐのまうこのまちこうぢ。ナニト
移るようちやくゝ言ふ。びき。ほ。ハ。ハ。移。ゐ。ゐ。ゐ。ぬ。ぢ。
ほ。ぢ。さん。ゐ。ゐ。せ。へ。ぬ。ぢ。ち。ん。ぬ。ち。ぢ。ア。ね。くゝ。ア。ノ
ぢ。せ。へ。ゐ。射。ハ。ほ。こ。と。ん。ぢ。め。ま。ま。ぬ。ん。ぬ。ぢ
あ。ん。ち。ぢ。ま。ん。ゐ。ふ。ち。ち。て。も。一。ち。ま。ま。と。ち。ゐ
ん。ぢ。ち。ぬ。ま。ぢ。ぬ。ま。ち。ち。ア。ま。ま。移。ぬ。ち。ま。
ことぬ。ちアうちこの内をぬけて出よ。ふ。ぬ。

出さるのぞおいらかさま（迎よ）「イヤ〳〵まだ」。
迎出さる程んつけられさて。どのうもいらがうさん
くさくおりわまて。結句疑ひをまる出すめぐせ
「それのそのごが。全体（ぜんたい）ほんさん。おめ〳〵がこりん
隆（りう）」とうんとうて。おうぶ稼（かせ）ぐんなこまつとうのわ
稼（かせ）〳〵トのうりもんで稼（かせ）ぐめぐう「モシイ」お客さま。同登（どうや）の
殺人（さつにん）さるのござう世人（せじん）トのひをそくうけ。
天ぜのの人こそひと
ちさまうる男さ程ようちて。みさんづまらうう「ヤ」ッリヤ
てちんをとり。そやくざ程（ほど）たらまづ

まるんぷコレハたまう稼（かせ）〳〵トうつうてだんだうのきてたのあるて
あるとつぶ〳〵さづれてこそるく。ふまるまをつう。ぼきあげ出す。ふまるまをつう。ぼきあげ出す。
きさんいちまくさんまうけ出す。そるく。これとまあをつぶ。
あるのうの中意へこうげおちこうるぶ。「エ」人今のわ雑でや。「ヒ」
そのあくちやつとあんの下へまひ。
紙（かみ）をぼがうんさトざ程（ほど）。ふまうもめをさまし。おきあがる
「いんま」変（へん）うたり出（だ）さん雑（ざつ）でや。今夜のようよ
やうまん晩（ばん）のうちぶ。それでも宵（よい）よ合（あ）うとう
やう。居（ゐ）ぶが去（さ）まて。モシイ。あるう方。のわ何時（なんじ）
つせ〳〵ともうよござうまう。「それ」孫（ちんそう）を呼（よ）これ

皆打揃ふて。よく〳〵お出「なされ先生あんぴさーしようで。
南窓人、お出なさと。先ん刻伺者どの、ちと〳〵せで。おもち
いさて。早速お通なされ。事多でがりさあそなり
まして。先ん此堅務でいまめでゑんとでやト云ふ所のよのさよ。一所よまりしも
ものとのもでそれくよあいさろし。ことの外「モシ此書字」至
うやさひりてるもそのよふなふそれど
さんざろさの金沢ところでうか外てつま
さりやーさとろ〳〵「そのでやく〳〵「ハ〳〵いづれも
笑ふるさんざろか此元と道連まるつてうろ。例の巳ぶ

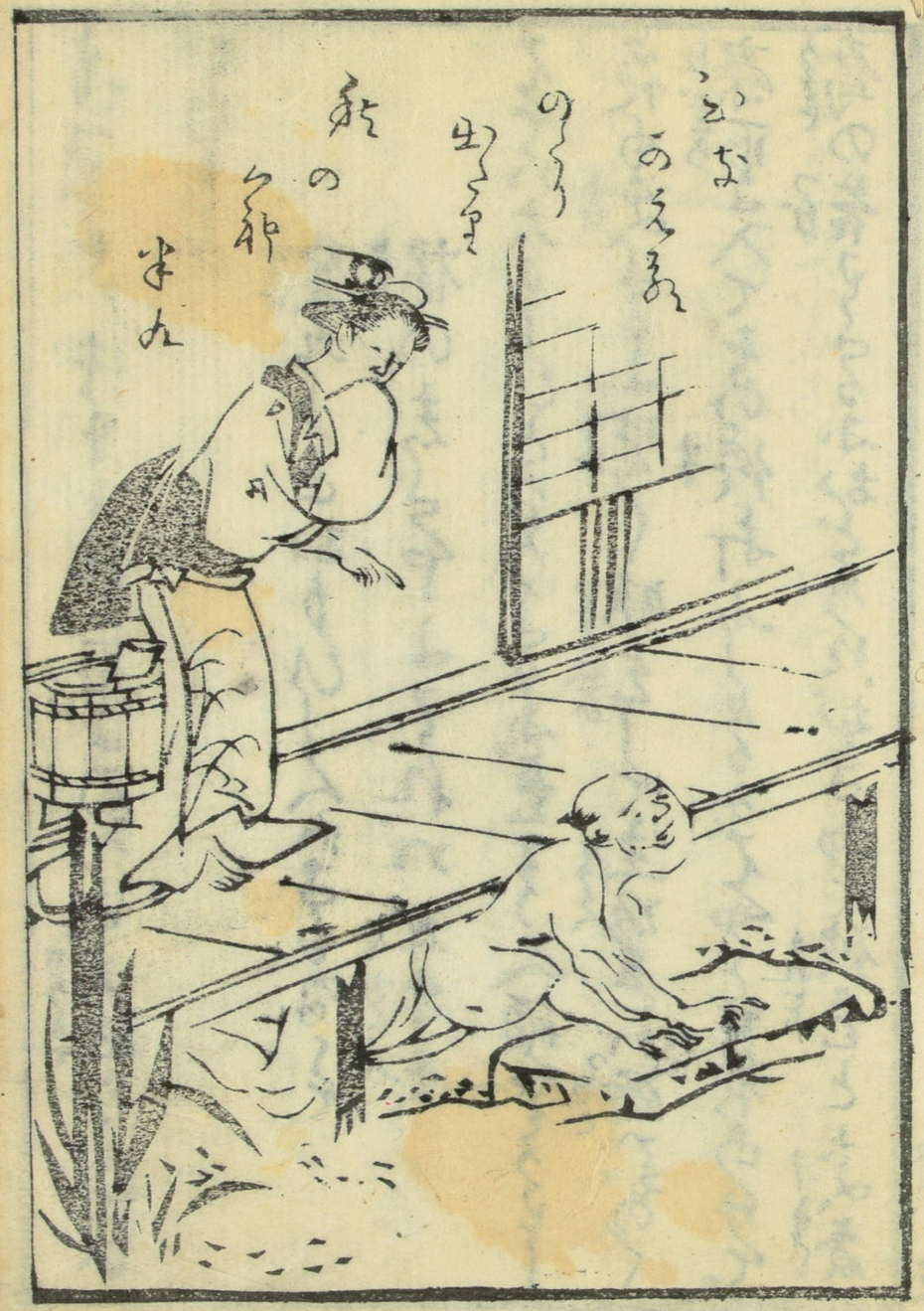
晒義でのでもいやかしを夢のとおりつて。伺者も
ーも。護テの戻ら。追剥でのるよあよ駕く駕を
ちろけて来さ所が。秋ふうけて。氣まひがるやた。
所でちくの亭ぶ此の松原で。金をさ〳〵ま
ものがあるといそまさをさひろおそれもおいらが
業のやうらんさろ。さそろのなんあろうやで。
とんざおり行いことでおざろさ。ハ〳〵「伺モシ
旅人の金沢所て来おろさとおでも用ありけと

財布の性体いこれでくートのぜんのさいふをふとさろ
ふぐくめ　ふくりん　ふくくくとんでも祝くぞんなく皆へ　晒屋
かくおんこうの泥れりと大きなる紙きんを色ごうきう
祝くコリ　お客さるおわるアポーもきうとなるでありぐ。
りんまさけが茶方東西ざざくせくて。親御を祝くく
さうせくさ。先生さるおぎやとだめてぎやうち
去おりまくぞれでるア。泥れり先生さるの字子
さちぐさんみ近所の泥れでピーが西ぐ浪つてざざく

せると吹つせくてぐさうせくさるのでぐざう
やるとトいさいのさるーけらうんりの祝は似合ぬぐんざーやうざん
りのふてぐるれきやれとわいひるくさのやうるきとぐ
いろうてききあてぐぼけくぼハをいろうるけ。さくるとろうて。
ちてハ大きくひとろうりさうるけ四けくくより先王へちそうて
会得乗とんくてかうてうりさけ。さうるをりちきうう。やがて泥
りとろうりぐさくつおさくつ。さるでくーるさくーごくーてろうひざでめく
ふそざ紙不どうう。中庭のるくんの下へたひてきくれねうくー。きさハ
けさうとだをさて。何ともぐそんきうぐいうふと。床の下おく
ふうくー去のびやうくーがそろくくたひ出ようとるる。西へ下女さうる
ぐちをけよりちるのぐうるんぐれをうそうりかりーよきくんぐるんの
下ようりやつと。首をさー出ーるをんてきりをつぐー。さうるだちも
をさくるうり出ーごろうとりひてざれくころげきるふるくおど
ろき　コリヤ　何とくさそとみでやくく　トろうてさうてさぐれ
ぐ。兵ろるくとみるひ

ゞのなもあつぞ。あのも　コリヤ大うさ強ぞよおどさんさ
いろれぬやうまそイ
ものでおろう。ホニコロちの片足の男ハどさへ
いつさやト　ざーれをさそ　モシ〜ぞうちの
うろうろとうろうろ出
片足の男ハさうちへ参りやせぬろ　イエまつ
ちイかんへさろせへ　ハテ　とめーさやポハ
きさへどこへいつさポハヤアイ〜ト　そこへとびちあけ
ばかりそうるこうまて
コイ　どこざく　こざよく　ト　ちさやトうろ
こへうさるあへ
ほれ〜上よりあんの　ここ　ぬる　ちさよ居るへ　ハ〜
下をさ〜のぞき

どうも行へぞのぜそんなる所よりこんてある。サア
出行へう〜　出そもあるふりう　ちまさこそよ
ほ人ものぞろぞうめんぞれていろさろ
る森といそどとサア〜出行へう〜ト　山内のものも
えどあるまい
ものちくうどなんでや。おつまさ取かどこよどざ〜
せるトいふ月ポハかちやようこひ出さところ。森もかゞぐもうちぐよ
ひろうみ。九さどろのちくさもむさ　ちくしよるひぎころ〜そ
おるうそうつき。行とももさくんうるよりこまくふ
出〜　コリヤどうでロハ〜ハ〜　べうぞうめぞそのうりん



んぞ。そこでおんぞーは世ぞ。ヲヤくゝ。ゆん小。
庶の下でとけこそのでおぬてきと。天晴なんぞ。ゆ
ゆるこゝてゆさるゝ。ゆるゝ移くぽたさんぞのそ
ゆめく後生ぞ。ゆうて来てくる移くゝ。よとゆる。
ナニこゝのゆんぞ。ゆめくのゆうちゝゆんと。ゆこて
ゆこて。ゆこゝこゝが移くゝ。ゆこゝゆこゝ。ゆこゝ
ゆこゝゆこゝこゝのゆこゝこゝゆこゝゆこゝゆこゝ
かの侍ゆめゝこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ
ゆこゝめゝこゝこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ
ゆこゝのゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝゆこゝ

「コリヤア」はきまり悪へ見まあるつ。去迎からぶい
おひとぶ
宝九郎とおもひ人かさもあるて
禄のまつやまこれか九さま
ちそふ大ひとあるうるぶ。是より又酒くこうと
あるもあるよ皆く時をして立場をが。跡へもの
楽屋へ入てその後打あるぶ。あるもあけて。
鳥の皆とうるふおどろうれ。おきあるて彼是とよ友

もるうちぶ八ちろつ紙て「コリヤア」はきまり悪へとぶ
あるとん「ぶ」ぶ「ア」ノあんぶ。どあもうんぶちあつて
あれ紙へトおとこと「おとこと」「おびるきうまるぶ」ヨイ
外のるぶヤア紙へが男元をひとりたのきて「ハイく」
さあうヤませどトかろそあもくとろそ「ハイ何ろ仰ぶ
あろつせるそあるぶ「ライく」ろちぶやうよいきてへが。
さあくそのあどろぶどあぶ。できるあへ袋銭百文そづきや
せうろぶ。ろつて五あてあひてあめぶある「男」「あんでや

どこゝいたあるでや。小ハイヤその中屋の様の下の
ところとかくのうちゝぽさまむぢうこんでりらひてへ
男エヽアノ家の中へうる小ハそんさそこへ立てをさあご
あるうゝ男ヤアノくどもの中うもるんぱゝ〜おそこうるてへ
何をおろうせへ。小ハあんぢーをこもそれてあさ男
コリヤどんでやかうこさ立へこもそれてござゝせへうゝさ。
男雪隠るゝそこうるてまあうあるよ。様の下へまあろ
しゝこぢゝうせへてぽおそてあこうせへさあんであご。

小ハナニ猫ぢやアあるめへ。様のしたへこれよりまあご
陳ゝゝまめへ。男油で煮メこうまあんぢーを
そんるよおがるこさアゆ。だろくゝん。男イヤそれでも
るけゝるやロ不自由であるぢぞよアーとうて
男てあげちせぢとトしうてのぶけ月ちやぜんをうちあるぶ。
おの下男まろうるようぢれしまくるすびてあるくあるさいらう。
陳ろうけ。陳るまだへ次のるようかうとさ。出せがそるくきもを
ぢ。コリヤりゝるんぢ。エそこそ様へ雑ぢゝ〜
男ハイ。おあさるのあんぢーんぢをでやゝぽーん

樽で中蓋をぴつたりけて来ありまして氣の
毒様へぞつとしてくるびよりはよそのあんどへ
くりけておくものがあるドレく中あいコリヤ
どあるまつ様なものをてりつけておくのぢ全部分。
むをびつけておくろう。禪寺おくもの移へがその食ぶ
おくさま百半てどうてまて賛つさのものぐちゃ
けまふ様へだくむをびめぐとけておとさのぐ
おろう様なものをらふゾリヤきのふめへくうぷ部分を

移へてまろとおいふぐ雨へ移ぐどヤア移へろ雨ニ
そふぐろけさろだろうとそれさ男さで今の貸殘百文
くまさろ世ます男ヤ中さ移ぐどんぐめふ
あろさぐめへます

おさ和をやくふんとよ貸殘の
百目雨知としてやられさろ
やくてを移へ小時をんをーあろへやぐて山ところを
ちち出る

木曾街道續膝栗毛四編 下之巻終

跋

趙高鹿と書とせし。一九先生小冊や
楪栗毛を見る。鄭箋より鶴と出し。
亦八百姓喬愛の餅。人を化せし放不師が
あらぬ小説長篇の乗掛合うりは
足為り年々新作新趣向

寄行遠爲長命之木

曾御首、後孫二喜多の二人連歌の

潤筆人今須とし板ちゝ賞系

凡常餘の中の暮、種ちさくしすゞ

沛新寺早カ河戸催会ハ加賀ゑ

拾墨しれ、戒ハ沙角稱沼ハ有ま

編る二角物男爲新鹿の男ハ鹿

ち仗又蓬の乃ち不思議ハ僕ハ

稱今系多の孫男ハ山鹿の庵ま

取撰ち書墨ハ桂の人喜ハ

踏ち

文化癸酉孟夏

錦考有山敬

本書十返舍元作来戌春

街道續膝栗毛後編　二冊

大阪心斎橋唐物町　河内屋太助

江戸本石町　西村源六

同通油町　鶴屋喜右衛門

日所　村田屋次郎兵衛

日本橋通二丁目　和泉屋市兵衛

四ノ十　六十一ノ

20